

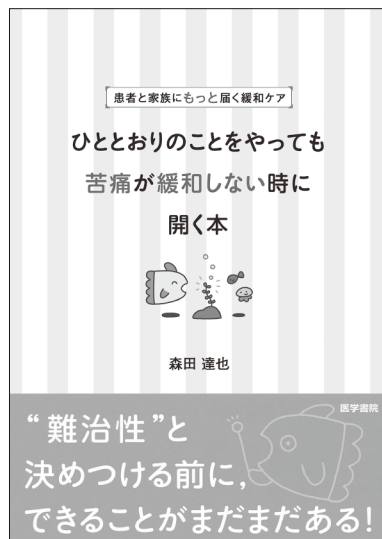
BOOK REVIEW

患者と家族にもっと届く緩和ケア

ひととおりのことをやっても 苦痛が緩和しない時に開く本

森田達也 著

本体2400円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600



緩和ケアの原体験

気がつけば医師になって20年、私は自分の専門分野を持つ幸運を得ました。過去に何度も自分のキャリアの節目となる機会がありました。その機会はいつも診療を受け持った患者がつくってくれた天の配剤ばかりでした。

私が緩和ケアの魅力にとりつかれるきっかけとなった1人の患者のことを今でも明瞭に思い出すことができます。その患者は、肺がんの骨転移で相当な痛みで苦しんでいました。上司に相談しながらその患者の治療を受け持っていた私ですが、痛みの治療がうまくできず、「痛い」と言ったときにロセゴン®を注射する」という今では考えられないような幼稚な

治療をくり返していました。

緩和ケアに関する1冊のテキストを購入し、その中に書いてある治療を見よう見まねで、その患者のために実践しました。初めて、モルヒネを大型のシリンジポンプで持続皮下注射し、数時間もしないうちに痛みがほとんどなくなる体験をしました。患者と私は大いに喜びました。わずかな時間とちよつとした治療でこれほどの威力があるのかと、緩和ケアの面白さに引き込まれていきました。

自分にできることが、 患者の苦痛を緩和すること につながる実感を持てる

緩和ケアの魅力にひきこまれ、実践を続ける中で、うまくいかない体験もするようになっています。緩和できない苦痛があるという現実を知るのです。そのとき必要なのは、治療の可能性を探ることと、「今すぐ何か工夫できること」を次々に考えつく知恵なのです。『ひととおりのことをやっても苦痛が緩和しない時に開く本』には、そのような著者の経験と周りの医療者、関わった患者、家族の経験と知恵が集積されています。著者の考える、1人ひとりの患者に対する細かな配慮を惜しむことなく読者に教えてくれ

ます。

とはいえ、看護師や薬剤師は治療薬を直接処方することはできません。しかし、医師が処方した薬をどのように使うのか、また薬以外で何をするかは、工夫することができのです。痛みのある患者に医療用麻薬のレスキュー（速放製剤）をどのようなタイミングで使うか、せん妄患者に排泄ケアをすることで落ち着きを取り戻すことはできないか、呼吸困難の患者に室温や空調を工夫することで症状を軽くすることはできないのかと多くの試みができるのです。さらには、患者との対話で、「ちよつと試してみても、だめなら元に戻せる」と声をかけ、患者の心理的な抵抗を軽減することも身につけるべき知恵として本書には満載されています。緩和ケアに関わる医療者誰もが、病院であっても在宅であっても、「自分にもできることがある。自分のできることが、患者の苦痛を緩和することにつながる」という確かな実感を持つことができるのです。著者が、すでに亡くなっている過去の患者と身につけた多くの知恵は、本書とあなたを通じて、時間を超えて今を生きている患者に伝えられ、救われていくことでしょう。どうかあなたもその伝承者の1人となってください。